

はまかせ

風が運ぶお知らせ便り♪

2013.02
Vol.02

ワンランク上の病院をめざして

私たちは、患者さんの意思を尊重し、
高度で良質な医療を提供することによって、
地域社会に貢献します。



nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp

Message メッセージ

先進医療と多職種の専門性を活かして

乳がんチーム医療

■概要、Q&A、スタッフ紹介 etc.

Information お知らせ

■にしびょうTopics
第41回医療功労賞 etc.

■がん対策
がん相談支援室

■患者サービスの向上をめざして

■院長エッセイ「四季雑感」
遺伝子のプログラミング

■医療技術NOW!
エラストグラフィを導入

■絵の中の風景を旅するvol.2
にしびょう美術館館蔵品を毎回紹介



乳がんチーム医療

乳腺外科 小西宗治、箕畑順也



私どもは乳がん診療において初診から治療方針決定まで迅速に行い最新のエビデンスに基づいた適切な医療を提供します。

診断は乳腺外科専門医、超音波技士、放射線診断医・技師、病理医、細胞診スクリーナーで行います。カンファレンスを頻回行い情報共有をはかっています。また医師、放射線技師は県のマンモグラフィ講習会や超音波講習会の講師も務め、高い診断水準を維持しています。

手術は乳房温存療法を積極的に行い、60%の方に乳房を残しています。腫瘍径が3cm程度までが乳房温存療法の適応ですが、術前化学療法を積極的に行うことで、病変の縮小を得て温存率を向上しています。またセンチネルリンパ節生検により手術患者の70%に腋窩郭清を省略しています。RIを用いたシンチグラフィを術前に行い、術中は色素を併用し高い精度を得ています。

薬物療法は、腫瘍内科専門医と乳腺専門医が相談しレジメン決定しています。化学療法センターで薬剤師による薬剤指導を行い、化学療法認定看護師の厳重な管理体制のもと安全に行えるよう務めています。

放射線療法は、放射線治療医らのもと迅速に行っています。

入院においては、看護師、医師、薬剤師、管理栄養士、MSTなど様々な職種の専門性を活かして治療方針を組み、また患者さんやご家族も交えて情報共有を行い最適な治療がスムーズに行えるように努めています。

乳がん診療は地域の開業医の先生方との連携が重要です。地域連携によって、より多くの乳がん患者さんに適切に対応できると考えますのでご理解ご協力を何卒よろしくお願いいたします。



乳がん診療について質問!

INTERVIEW



Q 抗がん剤治療は入院で行うのですか?

A 初回治療のみ入院して頂き、副作用がないか観察を行います。
2回目からは、外来化学療法センターで行います。

Q 抗がん剤の副作用が心配なのですが…

A 抗がん剤治療に伴う脱毛後のケアや精神的な苦痛緩和のため、綿素材の帽子を患者様にお渡ししています。化学療法を受けている患者様のボディイメージの変容に寄り添うことができるよう看護師がサポートを行っています。その他なんでもご相談ください。

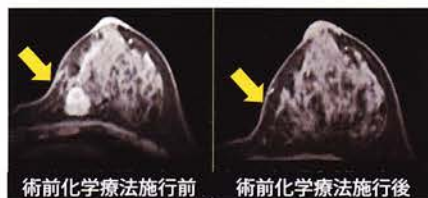


回答者：病棟看護師長・天野和美

最新情報

□ 術前化学療法

乳癌はその性質によって4つのサブタイプに分類されます。それぞれの性質に沿った薬剤選択を行うことでより高い治療効果が期待できます。HER2タイプ(ホルモンレセプター陰性、HER2陽性)においては約60%の病理学的完全奏功を得ております。



● 術前化学療法のサブタイプ別治療効果(当院データ)

スタッフ紹介



- 小西宗治(乳腺外科部長)
- 箕畑順也(乳腺外科医長)
- 泉山一隆(放射線科部長)
- 岩間祐基(放射線科医長)
- 楳原啓之(腫瘍内科部長)
- 天野和美(病棟看護師長)
- 渋谷はるみ(がん化学療法看護認定看護師)
- 検査技師
- 放射線技師
- 薬剤師
- 看護師

阿部部長に第41回医療功労賞

2013.2.2

長年にわたって地域医療の発展に貢献してきた医療関係者に贈られる「第41回医療功労賞」(読売新聞社主催)を、当院の安部・医療安全対策担当部長兼小児科部長が受賞しました。安部部長は、38年間にわたり小児科に関する研究や診療に従事、当院では県内でも数少ないてんかんの専門医として、約500人の患者の治療にあたるとともに、B型、C型肝炎の母子感染防止にも実績を上げてきました。今後とも、「医療を通じて患者が社会生活を送る手助けをしていきたい」と、さらに意欲を高めています。



地域医療センタースタッフ紹介

4月からスタッフの異動がありましたので、紹介させていただきます。患者様・地域の先生方からも満足していただける病院を目指して参ります。今後ともよろしくお祈りします。



- 地域医療連携部長: 乾 由明
- 地域医療連携課長: 金谷 美恵子
- 地域医療連携看護師: 川辺 美由紀、光平 真由美、市位 理恵
- 医療ソーシャルワーカー: 畑 裕美、杉本 極、塚本 麻依子、今村 登美恵
- 事務員: 福田 奈美、小比賀 純、本間 登、塩田 基子、小谷口 貴美子、中川 洋子、萱場 春美

がん対策

がん相談支援室では、がん患者さんやそのご家族の方々のがん治療を受け、不安なことや悩み、また療養生活や仕事の悩みなど相談をうけております。週に2回(月・金)無料でおこない、電話予約制でどなたでもご利用できます。

また、患者向け学習会を開催しております。抗がん剤による副作用や放射線治療、食事のことなどを一緒に学習し、患者さん同士で思いを共有し気持ちを軽くして帰られています。

今年度は、6月、9月、11月、2月の予定です。興味のある方はご参加ください。

がん放射線療法看護認定看護師・高津 秀子



患者サービスの向上をめざして

身近なPM2.5対策



今年の春は、黄砂の飛来とともに、PM2.5(微小粒子状物質)による健康被害への関心が高まりました。しかし、専門家によると、大気中に漂うPM2.5よりもたばこの煙の方がはるかに有害性が高いとのこと。しかもたばこの煙には70種類近い発がん性物質も含まれており、怖がるのなら、明らかにたばこの方だと強調しています。小さな子供さんや肺に病気を持つ人はPM2.5の影響を受けやすいとされています。当院でも院内禁煙とともに、患者サービス向上委員会による禁煙パトロールを実施していますが、身近な環境・健康対策として、まず禁煙から始めてみませんか。(総務部・吉野豪人)

四季雑感



過 日、晴天に誘われて、桜が満開となり多くの花見客で賑わう夙川周辺を散策しました。昼間の桜は凛として美しいのですが、夜桜には、そこに妖艶さが加わるように感じられます。日本人が桜花を愛する心には、独特のものがあると思えます。西行が詠んだ「願はくば花の下にて 春死なん そのきさらぎの 望月のころ」はあまりにも有名でしょう。これは私たち日本人が持つDNA(遺伝子)のなせるわざでしょうか。

ところで、病気になるには、環境と遺伝、それぞれがかかわっていることを皆様はよくご存じだと思います。生活習慣病になるには、「過食や運動不足の環境因子」と「体質などの遺伝素因」がともにかかわっていて、どちらとも切り離せないものとなっています。

ところが、最近では、環境が遺伝子の働きに影響することが分かってきました。とくに母親の胎内にいるときの栄養状態が、その子が成人してから生活習慣病になるかど

うかに、大きく影響しているようです。たとえば、妊娠中に母親の栄養状態が悪いと、生まれた子供は成人後に肥満や糖尿病になりやすいことが分かっています。

なぜそのようなことが起こるのでしょうか。簡単にお話ししますと、「胎児のときに、母親の栄養状態が悪いと、胎児の身体は、生後も栄養状態が悪いだらうと予測してしまいます。そこでその子の身体は、ずっと省エネ状態になるように、自分の遺伝子をプログラミングする」ということです。ですから、成人になっても、そのプログラミングが続くので、少し食べ過ぎが続くと、生活習慣病になってしまうようです。しかも大変悪いことには、その遺伝子のプログラムが、さらに次の世代にも受け継がれるということです。

現代のわが国における、一部の若い女性にみられる痩せ志向、いわゆるスーパースリム化は、本人の健康だけではなく、子、さらに孫にまで、悪影響を与える恐れがあり、その結果、肥満や糖尿病の素因を持った子孫を残すことにつながってしまいます。若い方々にこのような知識を普及していく必要性を痛感しています。

桜を愛でる私たち日本人のDNA(遺伝子)は大いに子孫に伝えたいものですが、生活習慣病になりやすいDNAを彼らに引き継ぐのはご免こうむりたいものです。



院長
河田 純男

医療技術 NOW!

西宮病院の「今」がわかる。

エラストグラフィ (Ultra Sound Elastography: 超音波組織弾性映像法)

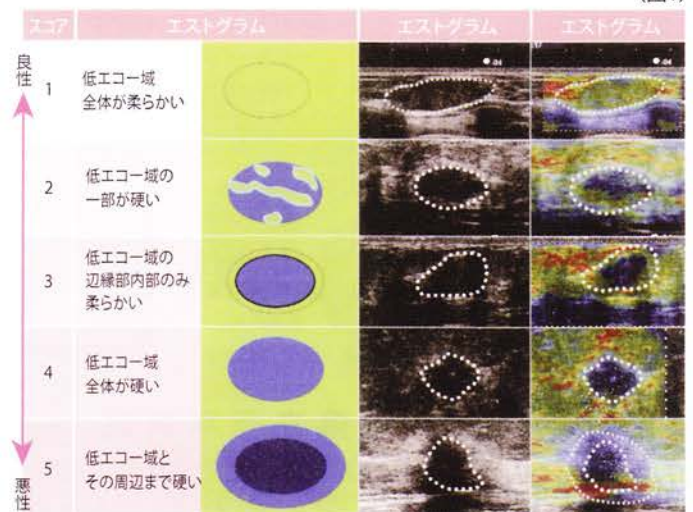
(図1)

乳腺が発達している40歳以下の女性には超音波検査が向いているといわれますが、超音波画像の正確な読影は医師や技師の経験に頼る部分が大きいいため要精査(精密検査が必要)率が高いという傾向があります。

この弱点を補うため登場したのがエラストグラフィです。これは、組織の硬さをリアルタイムで画像化する技術で、良性病変に比べてがん組織が"より硬い"ことを利用してがんを検出する方法です。(図1)

当院中央超音波センターはエラストグラフィを導入した超音波検査を実施しており、診断精度の向上に取り組んでいます。

主任検査技師・真田浩一



絵の中の風景を旅する vol.2

<http://www.nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp/>

当院外来ロビーや各病棟には、地域の方々や入院患者様、そのご家族などからのご寄贈による200点以上にもぼる絵画が飾られています。“にしびょう美術館”の貴重な“館藏品”は、当院ホームページ内の「にしびょうWebミュージアム」でも常設展示していますが、これらの作品の中から、毎回、ちょっと気になる1作品をとり上げてご紹介いたします。と一緒に、絵の中の風景を旅してみませんか。



展示場所

本館4階検査部前の
廊下壁面

まるで万里の長城のような堤防上の道を、荷物を背負った二人連れがうつむき加減でのぼっていく。よいしょ、よいしょ、うんとこどっこいしょ。そんな呻き声が聞こえてきそうな勾配だ。でも、なんだかこの坂道の光景は先の希望につながる暗示を含んでいる気がする。明るい陽射しの中、うんとこどっこいしょの喧嘩には、しんどそうではあるが、辛酸や苦難の気配は感じない。見ていると、この勾配の果てにある眺望をめざして、一緒に後を追ってのぼっていききたい気持ちに襲われる。うんとこどっこいしょ、そんなレトロな喧嘩で自身を鼓舞しながら (滝口 吉樹)。

編集後記

編集室 K.K



風薫るさわやかな季節でございます。

今回も「はまかせ」をご覧いただきありがとうございます。西宮病院がワンランク上の病院を目指して何をしようとしているのが、少しでも地域の皆様に伝わる様にこころがけていきたいと思っております。

兵庫県立西宮病院

〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町13番9号
TEL:0798-34-5151(代表) FAX:0798-23-4594
地域医療連携センター FAX:0798-34-4436
E-mail:chiiki-kn@hp.pref.hyogo.jp

HAMAKAZE
2013.02
Vol.02

nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp

2013.05 発行